

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ここりっと				公表日	2025年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動スペースの使い分けを行い、安全面と活動のしやすさの両立に配慮しています。	利用人数の増加に伴い、より適切な環境設定が必要なことが想定されるため、状況に応じて工夫していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用予定人数やこどもの状況に応じて、必要な支援が行えるよう職員配置を調整しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		視覚的にわかりやすい環境設定を心がけ、こどもが見通しを持って過ごせるよう配慮しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清掃や整理整頓を日常的に行い、活動内容に応じて過ごしやすい空間づくりを行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	必要に応じて個別に落ち着ける場所を確保し、こどもの状態に合わせて柔軟に活用しています。	利用人数の増加に伴い、より適切な環境設定が必要なことが想定されるため、状況に応じて工夫していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	日々の振り返りや定期的な話し合いを通して、職員が継続的に改善に関わるようにしています。	より多くの職員が業務改善に主体的に関われるよう、振り返りや意見交換、またそれらの記録を体系化するなどしてさらに充実させていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者からの意見や要望を把握する機会を設け、日々の支援や運営の見直しに活かしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員間で意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけ、業務改善につながるよう共有しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		今後、外部評価も行ないながら取り組んでいきたいと思えます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	支援の質の向上につなげられるよう、研修機会を設けております。	より適切な支援を行うために、研修の回数を増やし、内容も充実させていきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムの内容を整理し、わかりやすく公表できるよう努めています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		こどもや保護者の思いを丁寧に確認しながら、日々の様子も踏まえて計画作成を行っています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童発達支援管理責任者だけでなく、日々関わる職員の意見も取り入れて検討しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		作成した計画は職員間で共有し、支援場面で意識して取り組めるようにしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の観察と必要なアセスメントを組み合わせ、こどもの状況把握に努めています。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		本人支援だけでなく、家族支援や移行支援、地域とのつながりも意識して内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動内容は複数職員で相談しながら立案し、多面的な視点を取り入れるようにしています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節やこどもの興味関心、その時期の課題に応じて内容を見直し、活動の幅を持たせています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		こどもの状態や目標に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせて支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援前に打合せを行い、当日の流れや役割分担を確認した上で支援に入っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援後に気づきや課題を共有し、次回の支援に活かせるよう振り返りを行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援記録を継続的に残し、こどもの変化や支援の効果を振り返りやすいようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを行い、現状に合った支援内容となるよう見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		会議には日頃の様子を把握している職員が参加し、具体的な情報共有ができるようにしています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		関係機関と必要に応じて連携を図り、こどもにとって一貫した支援につながるよう努めています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		併行利用や移行を見据え、関係機関と情報共有を行いながら、こどもが地域の中で無理なく過ごせるよう支援しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学先との情報共有を行い、移行後も見通しを持って過ごせるよう丁寧な引き継ぎに努めています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて児童発達支援センター等と情報共有を行い支援の質の向上に活かしています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		地域との交流機会については、こどもの状況や実情に応じて無理のない形で広げられるよう工夫してまいります。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や連絡手段を活用し、日頃から保護者とこどもの様子を共有するようにしています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	今年度は保護者会を設け情報提供の機会を設けました。	研修会を定期的に開催し、情報提供を行うなど、発信の機会を増やしていきます。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	契約時等にわかりやすい説明を心がけています。	運営規程や利用者負担等について、よりわかりやすく丁寧に伝えてできるよう努めていきます。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画作成時には、子どもや家族の意向を確認しながら、思いを反映できるよう努めています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		計画内容は保護者に説明し、理解と同意を得た上で支援を進めています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、必要に応じて面談や助言の機会を設けています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	保護者同士がつながる機会について、事業所の状況に応じて設けられるよう工夫しています。	今後は、保護者同士やきょうだい同士が交流できる機会について、事業所の状況に応じてより工夫しながら回数を設け、充実を図っていきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談や申入れを受け止める体制を整えています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		SNS等を通して、活動内容や予定を発信しています。	情報発信の内容や方法について、保護者にとってよりわかりやすいものとなるよう様々な活用ツールを使用し工夫していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	2	個人情報の取扱いに注意しています。	個人情報の取扱いについて、児童の増加に伴い必要な保管設備等を充実していきます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		子どもや保護者に応じた伝え方を意識し、わかりやすい情報伝達に努めています。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		実情に応じた地域との関わり方を工夫していきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等とともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	各種マニュアルを整備し、職員への周知と訓練を行っています。	今後は訓練の回数も増やし内容の充実にも努め、緊急時に適切に対応できる体制を強化していきます。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	2	BCPや防災対応を整備し、定期的な訓練を行っています。	今後は訓練の回数も増やし内容の充実にも努め、緊急時に適切に対応できる体制を強化していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	1	利用前や必要時に基本的な健康面の情報を確認しています。	より細かい健康面の情報確認を安全に支援できる体制づくりを継続していきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アレルギー情報を事前に確認し、必要な対応を職員間で共有しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2	安全計画に基づき、研修や訓練を行っています。	今後は訓練の回数も増やし内容の充実にも努め、緊急時に適切に対応できる体制を強化していきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	避難経路などの情報発信を行っております。	定期的な発信などの機会を設け、より保護者にわかりやすくお伝えできるよう工夫していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた検討をしているか。	6		ヒヤリハットは記録・共有し、再発防止に向けた検討を行っています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	2	日々の情報共有等により適切な支援の継続に努めています。	虐待防止に関する理解をより深められるよう、研修の機会を設けるとともに、日頃の確認を継続していきます。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		身体拘束が必要となる場合の考え方を事前に整理し、保護者への説明と計画への反映を徹底しています。		